

## < 2016 熊本地震現地調査 >

平成 28 年 (2016 年) 4 月 14 日 (木) 21 時 26 分、熊本県熊本地方で M6.5 の地震が発生し、益城町で震度 7 を観測しました。その 28 時間後、4 月 16 日 (土) 1 時 25 分に同じく熊本県熊本地方で M7.3 の地震が発生し、益城町と西原村で震度 7 を観測しました。九州地方で震度 7 を観測したこと、また震度 7 の地震が連続して発生したのも初めてのことです。余震活動が少し落ち着いてきた 4 月下旬に現地に入り被害調査等を実施しましたので報告致します。

今回の調査は、地震直後から現地入りして活動している国立研究開発法人防災科学技術研究所 (以下、防災科研) と連携して自治体の被災状況を見てきました。

防災科研では、被災した自治体を巡回し、道路情報や避難所情報等が集約された情報ポータルサイトを活用した支援活動を実施していました。

4 月 27 日に訪問した合志市役所と大津町役場での調査では、合志市内の地震被害は、比較的少なく、市の災害対策本部も既に解散していました。大津町役場は、本庁舎が損壊し、隣接する町の電算機センターに災害対策本部が設置されていました。

翌 28 日に訪問した高森町役場では本庁舎に特に被害はなく、災害対策本部は、一部の山崩れの恐れのある地域の避難対応を行っていました。阿蘇市役所は、大分落ち着いてきているものの、余震が続いているため避難所の数は減らないそうです。南阿蘇村役場では、避難所の人数の把握や罹災証明書等の発行などの対応で手一杯の様子でした。

西原村役場は、一部建物に被害を受けていたが、被害の少なかった庁舎内に対策本部を設置し、住民対応を行っていました。

益城町役場は、本庁舎が損壊し、庁舎の一部取り壊しが始まり、被災者への対応が遅れ気味でした。

テレビ等の報道で紹介されるのは震度 7 を観測した益城町や西原村が殆どで、隣接する大津町での被害が大きかったものの殆ど報道されていない状況でした。

今後は、報道等のメディア以外のインターネットや SNS 等を利活用した情報共有の必要が有ると感じました。

被災の程度が軽い自治体と、大きな被害に見舞われた自治体の災害対応連携は、今後発生が予想される南海トラフ地震や首都直下地震でも大変重要になると考えられます。

REIC では、今回の調査で得られた被災地での問題点や課題について、今後の当協議会のリアルタイム防災情報活用支援事業等に貢献できる活動を実施したいと思います。